

我が家のカジダン・イクメンの秘訣

お子さんを持つパパたちへ
メッセージをお願いします

小さい子どもと過ごす1日は、予定通りにはいきません。昼寝しているときなど、空いている時間に家事や炊事を済ませておかないと、予想外のことに外出することも。その経験は、仕事をする上でも活かされると思います。

わずかな期間でも育休を取って子育てに関わってみるのは、男性にとっていい経験だと思います。かなり苦勞するでしょうが、多くの喜びにも出会えますよ。



「パパと一緒に料理」(広住 仁さん)

八戸市
広住 仁さん

育児休業を取得したきっかけを教えてください

長女が生まれた時に5か月、次女が生まれた時に10か月の育児休業を取得しました。仕事の関係で妻よりも自分の方が取得しやすいと思い、職場に相談したところ、最初は驚かれましたが、理解を示してもらえました。特に女性の上司が、「取った方がいい」と後押ししてくれました。

育児をしていて、戸惑うことは?

長女は最初の1週間、ミルクは飲まず、オムツを換えても泣きっぱなし。妻の母親へ助けを求めたこともあります。育児ノイローゼになりそうでした。車に乗せてドライブすると泣き止むことがわかってホッとしましたが、次女にはそれも通じなかったので、いろいろ悩みました。今でも、次女がなぜ泣いているのかわからないこともあります。まあ、そのうち何とか

なるだろう」と考えることで、余裕を持って接することができるようになりました。

2目が生まれて、長女の赤ちゃん返りも経験しました。自分でできたことをやらなくなり、ダダをこねるようになったので叱ることもあったのですが、それではいけないと、きちんと話を聞いて丁寧に接するようにしたら、自分から妹の面倒をみる優しいお姉ちゃんに戻ってきました。

喜びを感じるのはどんなとき?

初めてしゃべったとか、つかまり立ちをしたとか、子どもの成長が見られることです。次女が初めて発した言葉は「パパ」でした。長女がよく「パパ、パパ」と呼ぶので、耳慣れしていたのでしょうか。嬉しい反面、妻に悪いなあと(笑)。

長女はお手伝いが好きで、一緒に料理をすることもありますが、今では一人で包丁を使いこなせるほどになりました。

家庭を持つ男性たちへ
メッセージをお願いします

青森市
房野 倅士さん

カジダン・イクメンになったきっかけを教えてください

もともと家事をすることは苦ではなく、料理に関しては趣味と言ってもいいほどでした。1人目が生まれた時は、離乳食が始まるのが待ち遠しかったのを覚えています。

カジダン・イクメンという言葉を知ったのは、このフォトコンテストに応募する時です。自分ではあまり意識をしたことがなく、好きだから自然にやっていた、という感じです。

普段はどのように家事や育児に関わっていますか?

朝食の準備とお昼のお弁当は、私の担当です。家事をしているというよりは、料理を楽しんでいる感覚です。ただ、子どもが口にするものなので、素材などにこだわりがあり、やりがいを感じながら取り組んでいます。

料理だけでなく、家にいるときは家族と過ご

す時間なので、できるだけふれあい、子どもに合わせた時間で生活しています。早い時間に一緒に寝て、朝早く起きるので、自分も健康になった気がします(笑)。

カジダン・イクメンとして日々感じていることは?

子どもはあっという間に成長します。その成長を見逃すのは、もったいない。今しかないこのときを子どもと一緒に過ごすのは、親にとっても貴重で贅沢な時間だと感じています。

日本はまだ、男性が家事や育児に費やす時間が少ないと聞きます。昔に比べて、女性が社会に出て活躍している今、男性ももっと家事や育児に積極的に参加するべきだと思います。最近、育児を楽しむパパたちのサークル活動も活発のようですから、青森でもそのような活動ができたらいいと思っています。

夫婦共働きが増えて、妻や子どもと接する時間が取れない人も多いと思います。少しずつ、些細なことでもいいので、普段やっていないことにチャレンジしてみてください。妻や子どものために、そして何より自分のために、家族と一緒に過ごす時間を大切にしてもらいたいです。



「お父さんの子宮」(房野 水保さん)